



百錬自得

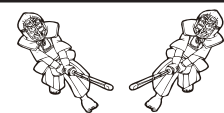
会長 羽田敏幸(六十一期)



今年、長野県剣道界に朗報がもたらされた。それは、国体の北信越予選大会で成年女子が全勝で見事優勝し、山口国体へ駒を進め、さらに、本大会でも健闘し初めての五位入賞という快挙をなしたことである。予選・本戦を通じてこのチームの大將を務めたのが、上小剣道連盟の澤田かおりさん(上田東高校出身)である。この女子チームの活躍に拍手を送りたい。

平成八年の『剣風』4号に、私は次のようなことを書いた。「昭和五十八年、五十九年をピークに高校生の部員数は年々減りつつある。長野県も例外ではなく、特に東信地域が目立つ。今年五月の東信大会では十九校中団体出場は男子十校・女子八校であり、そのうち、五名の選手が揃わなかったチームが男女とも数校あった。昭和五十四年の男子十九校、女子十七校出場の半数である」と。あれから十五年、一時的に盛り返しをみせたが、今年十月の東信大会(新人大会)では出場校がさらに減り、男子団体は佐久長聖・上田

題字:細川武敏(41期)筆
OB会報誌第19号
平成23年12月1日発行
制作:会報編集委員会
(株)上田ワードプロセス企画
TEL. 0268-23-1122 (代)



上小剣連女性部・部長の澤田さん

野沢北・野沢南の六校であった。出場校は全て県大会への出場権を得た。関係者によると、団体戦に出場した学校でも部員数は減少しており、このような傾向は他地区にもみられるとのことである。長年高体連に関わってきた者として寂しさを感じる。何れ、大会のあり方や、出場枠・チームの編成について論議される時が来るであろう。部員数の減少には、少子化の進行・運動部離れなどの原因が考えられるが、これを食い止める即効薬はないだろう。過去を振り返れば、十人そこそこの少人数で毎日こつこつと稽古をしていたチームが全国大会への栄光を手にした例は多くある。栄冠を手にするのは、創意工夫とたゆまない努力―「百錬自得」―である。

ねんりんピック・熊本大会に参加して

六十四期 春原 和民
五、六年前だったでしょうか、「ねんりんピック」という催しがあることを聞いたとき、それは所詮、お年寄りの祭り事だろうと、気にも留めませんでした。その後、稽古が中心の自分の剣道に「チエンジ」を求めたとき、「試合」というものを少しは真剣に考えるようになりました。

そんな折、さいたま市のねんりんピックの予選会があることを聞き、久しぶりに勝負にこだわった稽古をしてみたいと思い参加してみました。大半が七段という予選会でしたが、私は、六十五才以上の部で三人を抜いて出場を果たしました。これも、高校時代に身につけた勝負勘のお陰かなと思っています。

十月十五日、熊本市での総合開会式では一万人の選手団で、私の予想を上回る盛大なものでした。それもそのはず、十八のスポーツ種目と、四の文化種目で構成され、前者には、剣・弓道の他、ゴルフ、ゲートボール、ダンス、太極拳・・があり、後者には、囲碁、将棋、俳句、マジシャンがあります。選手の中には腰がくの字に曲がった人を見かけたので、「あの何をしに来た?」と聞いたところ、多分、ゲートボールだとのこと、腰が曲がっている方が構えが安定するとか。

熊本県の北部に位置する菊池市が剣道の会場であり、市を挙げての歓迎ぶりには改めて感激しました。また、選手控え室にて、兵庫県の先鋒として出場の金澤信男君(六十七期OB)とバツタリ。互いに健闘を誓い合って別れま

したが、ここでも剣道がもたらす絆のようなものを感じました。

私(達)の試合内容は、最初のリーグ戦では大阪府、さいたま市、長野県、島根県が同一リーグで錦を削りましたが、我々は大阪府を僅差で破り決勝トーナメントに進出を果たしました(ベスト十六)。特に対長野県戦では、先鋒から池田芳彦、宮川克巳、小口邦臣、浜弘毅、山内義富の各先生で、私は池田氏以外は知己の間柄で少々、やりにくさを感じましたが、結果として四人勝ちでリーグ突破となりました。

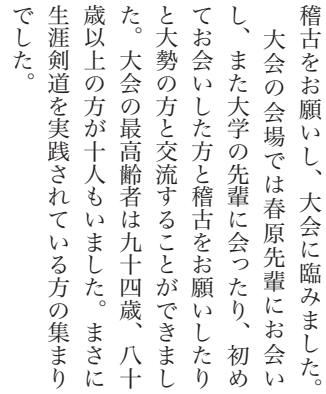
翌日の、十六チームによる決勝トーナメントの一回戦は青森県でしたが、これに勝利し、二回戦の地元・熊本県A(優勝)に破れ、ベスト八で私の初めのねんりんピックは終わりました。冒頭で、「ねんりんピックはお年寄りの祭り事」と書きましたが、剣道は様子が違いました。練習場での他県選手との稽古風景をみて驚いたのは、「あれが還暦過ぎの人か?」と疑いたくなるような若々しい稽古をしている剣士を多く見かけたことでした。これも日々の錬磨の成果でしょうが、私も加齢に流されることなく、このように澁刺とした剣道を続けたいものと誓いつつ熊本を後にしました。



ねんりんピックに参加して

六十七期 金澤 信男
OBのみなさん稽古されていますか。私は六十七期の金澤と申します。さる十月十五日から十六日に熊本県で剣道大会に出場してきました。大会名は第二十四回全国健康福祉祭くまもと大会ねんりんピック2011熊本剣道交流大会です。主催は厚生労働省、熊本県、一般財団法人長寿社会開発センターで全日本剣道連盟が後援しています。各都道府県と政令指定都市から各チームと東京都は二チーム、開催県の熊本は三チームで合計六十六チームが出場しました。選手は六十歳以上六十四歳未満が中堅まで。副将は六十五歳以上七十歳未満、大將は七十歳以上という制限があります。

私は現在西宮市に住んでいますので兵庫県チームで出場。先鋒です。戦績は第一試合が宮城県で3対1で勝利。第二試合は富山県で勝てば翌日の決勝トーナメントに出場できたのですが、0対2で敗退。決勝トーナメントにコマを進めることができませんでした。試合の前には箕面へ行って宮坂先輩に稽古をお願いし、大会に臨みました。大会の会場では春原先輩にお会いし、また大学の先輩に会ったり、初めてお会いした方と稽古をお願いしたりと大勢の方と交流することができました。大会の最高齢者は九十四歳、八十八歳以上の方が十人もいました。まさに生涯剣道を実践されている方の集まりでした。



この大会があることを良く知らなかったのですが、偶然、県の選考会に出ることができ三位入賞で熊本大会に参加することができました。来年は宮城県で開催の予定でしたが震災の影響で開催できず、再来年高知県で開催されるそうです。兵庫県は二年続けては選考会に出ることができませんので再来年かその翌年に選考会に出て、できればまた参加したいと思えます。剣道を通じて大勢の方と知り合い稽古をさせていっただいて新しい世界が広がっています。

私は上田高校に入学してから剣道を始めましたのでこの大会に参加できたのは剣道班のおかげです。高校ではインターハイ県予選で二位で全国大会出場できませんでした。四年前に稽古を再開して一応全国大会に出ることができて本当に良かったと思つています。剣道は非常に奥が深く、まだ全然わかりませんが、今後は子どもたちと稽古を重ねながら、少しでも剣の理法を理解し、伝統を引き継いでいけたらと思います。足腰が立つ内は竹刀を握るつもりです。OBの皆さんとまた稽古ができる日を楽しみにしています。

活動報告

幹事長 竹内茂直 (七十二期) 事務局より



二十三年度のOB会活動につきご報告いたします。ま

ず恒例の宮下杯・稽古会・総会で、六月二十五日にOB会員二十五名の参加をいっただいて開催されました。例



熊本市での総会開会式

年通り上田高校体育館において、OB皆様の運営・審判等ご協力のもと現役生による宮下杯争奪戦が行われ、引き続き現役生・OB合同の稽古会で汗を流していただいたあと、上田温泉祥園に会場を移しての総会・懇親会となりました。今年度は役員改選期にあたるため、総会では通常議案と併せて新役員について審議をいただきましたが、基本的に現役員の留任ということでご承認いただきました。ただし仕事の都合で転勤となった塚田量氏(七十六期・監査)と半田淳子氏(参与)の両名が退任となり、代わって八十七期の金森健志氏が新たに監査に選任されました。ご報告いたします。現役生のインターハイ出場に沸いた昨年と比べると人数的にはいささか寂しい総会となりましたが、五十九期香山博氏の乾杯に

未曾有の災害によっていくつもの錬成会、大会が中止になった。剣道のできる環境にあることへ改めて感謝をし、犠牲になられた多くの方へのご冥福と、いまだに過酷な日々を送っていらっしゃる方へのお見舞いを申し上げます。新人戦において、長らく続いてきた北信越大会出場を逃し、悲嘆に暮れたが、総体予選では男子個人で石田が総体まであと一步の所まで迫り、団体戦でも4位に入賞するなど新人戦の苦杯は雪辱できた。しかし、男女揃っての総体出場という大目標がある以上、現状に甘んずることなく邁進していきたい(顧問 神津 77期)

- 三杯剣道大会 中止
- 第4回上毛旗剣道大会 (8/13)
 - 男子 2回戦
 - 女子 2回戦
- 第7回謙信杯争奪高等学校剣道大会(5/4)
 - 男子団体 A ベスト決勝トーナメント 2回戦
 - 男子団体 B・女子団体予選リーグ
- 第26回若龍旗争奪剣道大会 (8/21)
 - 男子 ベスト 8
 - 女子 1回戦
- 第148回東信高等学校体育大会 (5/14,15)
 - 男子個人 石田大地 6位
 - 男子団体 2位
 - 女子個人 三井楓 4位
 - 女子団体 2位
- 第5回真田幸村杯剣道大会 (9/11)
 - 男子 A 1位 女子 2位
- 第37回東信青少年剣道大会 (9/25)
 - 男子 2位 女子 2位
- 長野県高等学校総合体育大会 (6/4,5)
 - 男子個人 石田大地 4位
 - 男子団体 4位
 - 女子団体 予選リーグ
- 第150回東信高等学校体育大会(10/22,23)
 - 男子個人 矢ヶ崎日路 3位 朝倉雄磨 5位
 - 男子団体 3位
 - 女子個人 三井楓 3位
 - 女子団体 久保田琳里葉 8位
- 北信越高等学校剣道大会 (6/18,19)
 - 男子個人 石田大地 1回戦
 - 男子団体 予選リーグ
- 第19回諏訪湖大会 (11/13)
 - 男子団体 2回戦
 - 女子団体 2回戦
- 剣道班 OB 会 第8回宮下杯 (6/25)
 - 男子 1位 朝倉雄磨 2位 和田友樹
 - 女子 1位 三井楓 2位 久保田琳里葉
- 東信高等学校剣道選手権 (7/18)
 - 1年 女子 竹内公実子 1位
 - 2年 男子 矢ヶ崎日路 1位
 - 工藤力哉 3位
- 上小高等学校剣道リーグ夏季大会 (7/24)
 - 男子 1位
 - 女子 1位

昔

明治三十八年

編集者注：小野田伊織、明治三十五年六月十八日着任、大正二年三月十七日、元長岡藩士、神道無念流練兵館師範、明治三十二年武徳会精録証、明治三十八年教士、明治四十一年範士

○春秋院校會 例年の通り五月二十七日及び十月三十日を以て催せられ小野田先生の懇篤なる審判と部員一同の熱誠なる鍛練とは其功績歴々として以て此兩度の院校會を十二分に裝飾しぬ部員諸氏幸に一は小野田先生に報いん爲め一は先進剛者の後継者たるに耻ぢざらん爲め一層斯道に勉勵あれ

十一月三日成績優等の賞として銀牌を授與せられし者左の如し

小山 貞知 山本 亮助 佐藤 均
 翠川 國平 倉澤 直憲 柳澤朝一郎
 吉池今朝儀 宮坂 周夫 富山 賢三
 ◎縣下中等學校聯合院校會 職員室に於ける話題に選手として授業中眠気を帯びざるもの一人もなしとまで乗せらるる程に各自其技を熱心に練りつゝ或る時は光陰は矢の如しとの格言を今更の如くに感じ或る時は待望のさの餘りかひなき空想に耽りし事もあり時は十月十五日今日といふ今日待ちしに待ちける院校會は開かれぬ山は秋を經て轉り淡く秋は山に入りて倍す清し縣下各校選出勇士の面々其數四拾六名を列ねて控へたり烟々たる其眼光儼乎たる其容貌滿身勇氣に溢れたる其態度眞に各校選抜の剛者と見受けられたり此道の達者たる且嚴肅なる左の諸先生の審判の下に試合は始まりたり

松本 角田大五郎 野澤 高野 正巳
 長野 山名求太郎 諏訪 漆崎松五郎
 陣範 柴田 克己 長商 堀 小源太
 上田 小野田伊織

竹刀手にして立上りし様兩虎深山に挑む時鏗然として風起り二龍青潭に眠ふ時沛然として雲起るも斯くこそあるべきか雷の如き掛聲丁々發々と切込む大刀風に龍と追り虎と開き千變万化の秘を盡して立動く様は威風の外はあらざり然りと雖も明晰なる審判官は我れ選手の秀麗を認むるに躊躇せざりき

○(坂本 義輝(諏訪) ○(河崎 通治(長商)
 ○(倉澤 直憲) ○(翠川 國平)
 ○(北村 信定(長野) ○(山本 亮助)
 ○(佐藤 均) ○(陣範 柴田)
 ○(小山 貞知) ○(中村 義雄(飯田)

斯くして三本勝負は終り次に一本勝負三本技を行ひたり實に倉澤直憲君は其勝者六名中の一人にてありき此外松中の三原休一君師範の今木一郎君は當座の優秀者と認めらる

以上の如く我れは光榮ある好成绩を拍しつゝ潔白なる勝負と正しき禮儀の中に試合は終りを告げ

十一月廿五日長野師範學校校長松田英太郎氏が岩村田擊劍會よりの歸途當地に立寄りければ我部は此期を利し部員をして稽古を受けしむ

始まり、杯を重ねるに従って気持ちちは高校時代にタイムスリップ、今年も大いに盛り上がるなか八十七期金森健志氏の万歳で和やかなうちに開きとなりました。それについてもやはり年に一度の定例総会、一人でも多くの皆様にご参加をお願いしたいと思います。その後剣道から離れている方も、試合稽古を見学して久々に剣道着の匂いを感じ出していただくのもよろしいかと思えますし、懇親会だけの出席もウエルカムです。二十四年度の総会は六月二十三日土曜日です。地元におられない皆様も初夏の週末、ご都合をつけて郷里・母校に一日足を運んでみてはいかがでしょうか。



班旗と OB 会旗の元、いよいよ開会式

次に運動部 OB 連合会の活動についてですが、一月の幹事会に続き二月十九日に総会が開催されました。総会に先立って幹事班である陸上七十一期の石坂克彦氏（飯山病院副院長）の講演がありました。が、医療現場からの

貴重なお話をお聞きすることができませんでした。なお今回の総会で幹事は陸上七十一期からバスケットボール班に引き継がれました。連合会恒例の春秋ゴルフコンペは、五月二十一日に立科ゴルフ倶楽部、十月十五日に浅間高原カントリー倶楽部で開催され、当班からも有志メンバーが参加しております。連合会の主な活動は例年二月の講演会・総会と五月・十月のゴルフコンペです。同窓運動班 OB との懇親の場であり、特に同年代の懐かしい顔と出会う楽しみもあります。総会・ゴルフコンペ等につきましてはまた剣道班 OB 会ホームページ等でもご案内してまいりたいと思えますので、ご都合のつく方にはご参加をいただければと考えます。最後になりましたが、会員皆様のご健勝をお祈りいたしますとともに、引き続き OB 会活動へのご支援をお願い申し上げます。ご報告とさせていただきます。



青春時代の思い出を肴に、お酒も進む

新任役員 の 抱負

監査 金森健志（八十七期）



今年度 OB 会監査を仰せつかりました八十七期の金森健志です。剣道を再開してから十数年が経ち、小学生の時から顔を知っている OB 会員も現れ始めました。若い世代と積極的にコミュニケーションを図り、会を盛り上げ、剣道班を支えていけたらと思っております。よろしくお祈りします。

随筆・和親記より

信州上田城公園赤松小三郎之碑の疑問

信州大学 大学院総合工学系研究科 教授 太田和親（百一期太田朝裕・父）

信州上田に二十年以上住んでいても今まで全く知らなかったのですが、上田城公園の中に、日露戦争の日本海海戦で有名な東郷平八郎の直筆の書があるのを、最近散歩中に偶然知りました。市民プール入口の辺りにある大きな石碑の表書き「贈従五位赤松小三郎君之碑」の文字が東郷平八郎の書です。この書の横に「元帥東郷平八郎書（花押）」と署名されているのでわかりました。この石碑の裏面には、この碑が建てられた経緯が刻まれています。この経緯を読んではじめて、東郷平八郎が、上田藩出身の幕末の偉人赤松小三郎の門下生であることを知りました。しかし、この碑の裏面の経緯の文

章の中に、赤松小三郎を密かに暗殺した薩摩藩士桐野が、堂々と赤松小三郎の門下生の筆頭に挙げられていることに、私は強い疑問を感じました。東郷平八郎は門下生として 4 人目に挙げられていると思います。皆さんこの碑文の謎をどう思いますか？

碑文を書き写して来ましたので、下に記載します。これにより、碑文が建てられた表向き経緯と、赤松小三郎がいかに偉大な人物であったかがわかります。

（碑前面）

贈従五位赤松小三郎君之碑

元帥東郷平八郎書（花押）

（碑裏面）

赤松小三郎先生略伝

先生諱（いみな）は友裕又惟敬上田藩土芹田勘兵衛の二男天保二年（一八三一）四月四日生る幼名清次郎後同藩赤松弘の養子嗣となり名を小三郎と改む為人豪放不羈（ふき）年十八江戸に出て内田彌太郎の門に学び安政二年（一八五五）勝麟太郎（海舟）に随ひて長崎に赴き海軍伝習所に於て蘭語航海術を専攻す又久年間（一八六一〜三）佐久間象山と交友し頗る敬重せらる元治元年（一八六四）外人に就て騎兵術並に英学を修め慶応元年（一八六五）英国歩兵練法を訳述す翌二年（一八六六）京都に上り家塾を開きて兵制改革を説き英国式兵法を講ず後薩摩の京邸に聘せられて其師となる門下生実には八百名桐野篠原野津樺山後の東郷元帥上村大将等其中に在り翌三年（一八六七）島津候の依頼に依り英国歩兵練法を重訂す此書蓋（けだ）し我邦兵法の基據となり

しと云う此比内憂外患荐（しきり）に臻（いた）りして以て先生幕府に建白して時事を痛論し又越前候に革新の案を進言して代議政治を先唱せり復公武合体の方策に基き薩の西郷の永井等と共に大に奔走尽力せしも藩命黙止難く將に東帰せんとし会刺客の害に遭う時に慶応三年九月三日年三十有七黒谷光明寺の塋（はか）に葬る島津候厚く弔意の至誠を竭（つく）す門下生相図りて墓碑を建つ偶（たま）たま）明治三十九年（一九〇六）五月東郷上村両提督信山に遊び相携へて月窓禅寺に展墓し先師の英霊を弔はる先生逝きて五十八年長くも（おそれおおくも）其事業天聴に達し大正十三年（一九二四）二月十一日従五位を追贈せらる今や大東亜戦争の捷報（勝利の報）連りに伝ひ御稜威八紘に輝く秋（とき）帝國軍制の創始に寄与貢献したる先生の偉蹟を偲び追福の碑を建て感謝追慕の念更に新なるものあり仍（よ）て茲（こゝ）に其業蹟の梗概を叙し以て世に伝ふと云爾昭和十七年（一九四二）五月上田史談会撰文 岡崎袈裟男謹書



これを読むと、赤松小三郎は、薩摩藩のために大変尽力して薩摩人に英国式兵学を教えた、薩摩藩にとって大恩

人であることがわかります。そして、碑文によれば、小三郎は暗殺された後薩摩藩の門下生によって葬られ、島津候も厚く弔意を表わしたとあります。しかし、後に明らかとなるのですが、小三郎は、薩摩藩の刺客^{※8}によって暗殺されたことがわかっています。私はこの碑文を書き写しながら、小三郎のことが大変気の毒になりました。薩摩藩は、大恩がありながら暗殺という手段によって、公武合体論者の小三郎を葬っているのです。島津候の厚い弔意も、真実を覆い隠すカモフラージュのようにさえ思えてきます。

また、坂本龍馬もほとんど同じころの慶応三年十一月十五日に暗殺されていますが、未だに誰が手を下したかわからないと云われています。「その時歴史が動いた」というNHKの人気番組では、「龍馬は薩摩藩と大変親交があったのですが、薩摩藩が龍馬を暗殺したという信じられないような説もあります」と紹介されていました。これは、現在のところ、全くの少数派の説と見なされています。しかし、小三郎の例から見ると、龍馬もたとえ薩摩藩と親交が深かったとしても薩摩藩に暗殺された可能性が大きいのではないかなと思われまます。皆さんどう思われますか？

なお、刺客は桐野利秋^{※8}という薩摩藩士で、上の碑文の中に名前が出て来る桐野その人ではないかと思えます。そうなら、まさに弟子の桐野が恩師の小三郎を殺害したということになり、この上田城公園内の碑自体、悲劇のように私には思えました。なぜなら、薩摩人の東郷平八郎は、京都の小三郎の教室（於薩摩藩京屋敷）で、桐

野と机を共に並べていたのですから、暗殺の真実を知っていたはずではないでしょうか。知っていた、後にこのような石碑に揮毫をしたことになりまます。もしそうだとしたら、碑裏面の説明（「略伝」）がさらに思えてきます。暗殺した張本人の桐野の名前が小三郎追福の文に入っている、それも門下生の連名のトップに載っており、常識では考えられないようなことになっていきます。「ああ、どんな思惑でこの略伝が書かれたのだろう？小三郎が浮かばれない！」と私は心の中で叫びました。もし、時代の最先端を行っていた小三郎が暗殺されずもつと長生きしていたら、明治の世でさぞ活躍していたでしょう。私は碑文を書き写しながら、一人、小三郎の無念を思い涙が出ました。



上田公園。今でも毎朝7時には「愛の鐘」が鳴り響く。その鉄塔の元にひっそりと石碑が立つ。

（編集部注：）ご興味がある方は、この続きはインターネットに公開されています。随筆和親記

<http://www13.nedane.jp/~kos5217/s14.htm> をご覧ください。著者の承諾をいただき、原文に手を加えずそのまま転載しました。

参考

- ※1 桐野利秋、篠原国幹、野津七次（道貫）
- ※2 上村彦之丞 ※3 松平春嶽・幕末四賢候の1人で、坂本龍馬もこのお殿様に二度面会に越前まで行っています。 ※4 島津久光
- ※5 西郷隆盛 ※6 永井尚志 ※7 この碑が上田に建てられた同じ昭和十七年、小三郎遭難の地である京都市下京区東洞院通鍵屋町下の西側に、京都信濃会により同様に「贈従五位赤松小三郎先生記念」という石碑が建てられています。 ※8 <http://www.page.sannei.ne.jp/ytsubu/kinno1.htm>

（OB 座談会・建設業界編）
百三期 丸山 美里さん

【司会・七十四期 山田恒昭】

今日は上田高校剣道班OB会の会報編集委員から依頼を受け、当社（北野建設株式会社）へ三年前に、現場女性技術者として入社した勇氣ある百三期丸山さんとQ&A方式の対談をしたいと思えます。



今日も建築現場で元気に活躍する丸山さん

【司会】

今年三月の信濃毎日新聞朝刊で、仕事ぶりの記事が大きく紹介されましたが、反響はいかがでしたか？もうかなりの有名人では？

【丸山】

今年三月の信濃毎日新聞朝刊で、仕事ぶりの記事が大きく紹介されましたが、反響はいかがでしたか？もうかなりの有名人では？

現在配属されている現場は、「（仮称）大田区山王二丁目計画新築工事」という、RC造三階建の分譲マンションです。八月二十五日より着工しましたので、年内は基礎工事までの予定です。職務は主に、工程管理や進捗に応じた人員・雑資材の手配、安全管理ですが、三年目ですので、図面の作成・チェックにも携わっていきたいと思っています。

【司会】

当社は女性の現場技術者を採用してまだ年月が浅い訳ですが、所謂現場監督になろうと思った本当の動機は、上記の記事にもあったようにやはりお父様の影響ですか？

【司会】

建設現場は野外作業も多く、天候の影響で雨に濡れたり、日焼けも激しいですが女性として気になりますか？また、高いところの苦手な人もいるけど、丸山さんは建設足場の上とかどう？

【丸山】

新聞のインタビュー時にお話しさせて頂いた通り、建築関係の仕事に就こうと思った動機は、父の影響が大きいと思えます。ですが、決定的な出来事とは、大学三年時のインターンシップでの現場見学だったと思います。その時に、実際の建設現場に触れ、「建物を造る」という仕事に興味を持ち、進路を決めました。

【丸山】

日焼けが気にならないと言えば嘘になりますが、職業上仕方ないことだと思つて諦めています。剣道は室内ですの、高校卒業までは日焼けすることなく色白のままでしたが、一変して現在は真っ黒です。高校以来お会いしていない方に会つたら驚かれるのではないかなと思います。

入社以前は建設現場で働くことに不安がありました。私の一年先輩に女性の現場技術者として採用された方がいらつしやつたので、入社してからは迷いや不安等はありませんでした。

【司会】

仕事上での苦労や、また達成感・喜びなどはどんなときに感じますか？

【司会】

現在の配属されている現場名と概要、また職務を教えてください。

【丸山】

この仕事に就いて三年になります

が、未だに「人を動かす」ということに難しさを感じます。現場管理において基本的な事なのですが、現場の流れ・職方の仕事を理解し、状況に合わせてどうすべきなのかはわからないと、職方に指示もできませんし、安全面・品質面共に管理できません。広く深い知識が必要で、私はまだまだ及ばない為に毎日苦勞します。ですが、それが現場管理に置ける面白さでもあるので、苦ではありません。

達成感や喜びはやはり、建物が完成した時に感じます。まだ二物件しか経験していませんが、あの瞬間はそれまでの苦勞が全て吹っ飛んでしまいます。

【司会】

上田へは時々帰省するのかな？

【丸山】 盆休みと年末年始に帰省しています。それ以外はなかなか帰省する機会がありません。

【司会】

さてそんな中で、我々現場技術者の宿命である資格（一級建築士、一級施工管理技士）の取得については、どんな状況で、今後の対応はどうして行こうと計画していますか？

【丸山】

一級建築士は来年取得のつもりで勉強しています。一級施工管理技士はその翌年という計画です。一級建築士・施工管理技士の他にも、資格取得には積極的に取り組もうと思っています。

【司会】

私も入社以来二十年間現場にいて、

海外工事（二件）や東信では佐久長聖中学校とかグラウンドハイツ上田中央マンション等を建設担当しましたが、今後どんな現場を経験したいですか？その理由も併せてお願いしますよ。

【丸山】

山田部長が担当されたような大規模な現場も経験したいと思っています。現場員が何人も居て、職方が毎日百人以上程来るというような大規模な現場は未だ経験したことがないので、単純に経験値を上げるという意味で担当してみたいです。仕事内容自体は小規模現場と変わらないかもしれませんが、仕事の仕方が違うような気がします。

【司会】

将来の夢や目標を聞かせてください。

【丸山】

現時点での目標は、現場責任者です。なぜなら責任者の立場で一現場経験しなければ、この仕事の本質はわからないのではないかと思うからです。将来的にどうしたいかはまだ考え中です。

【司会】

最後に、当社の居心地はどうか？

【丸山】

居心地は良いです。就職活動中、私では当社の採用は難しいのではと大学の就職担当の教授に言われましたが、諦めず受けて良かったと思っています。

【司会】

ありがとうございます。

【編集担当】 ここで、元上田高校教師で丸山さんの担任をされ、当時剣道班顧問でもあった、仁木良子先生に登場していただきます。

【仁木】

信毎の記事（『職ナビ』）の写真を見て、「美里らしい！」と嬉しくなりました。ヘルメットも似合ってますね。あの記事のとおり、彼女の手柄は、何と言っても真面目。稽古は休まず、手は抜かない。先生にも必ずかかる。口数が少なく、物静かな方だけど、意志が固く、精神的な強さを秘めている。

そんな彼女が、まん丸な顔で白い歯を出して笑うと、本当にかわいいんですよ。周囲がぼつと明るくなる。素敵な笑顔が印象的です。レギュラーにこそなれなかったけれど、チームにはなくてはならない存在でした。クラスでの愛称は「まるさん」。女子からも男子からも慕われる人気者でした。なにより、まっすぐで素直、努力を惜しまない性格は、県内最大の北野建設に新卒で入社し、責任のある仕事を任されていることが、証明しています。

【出席者】

インタビュー

山田恒昭（七十四期）

北野建設（株）

建築事業本部副本部長

丸山美里（百三期）

北野建設（株）

東京建築事業本部

施工管理担当

仁木良子（元顧問）

隣は仁木邦彦（七十六期）

※六年前の結婚式の写真を無断掲載（笑）



【取材編集】 編集長 佐藤 博（七十六期）

会員のひと言コラム

通信欄（葉書及びホームページより）

昨年4月から北海道で勤務しています。来年には東京へ戻れると思いますので、そのときは出席したいと思っています。

74期 名倉俊一

社団法人「日本詩吟学院岳風会」に入会し、詩吟の稽古を週一回しています。5月2日京都市立体育館での八段審査会場で春原君に偶然会いビックリしていたら、翌日京都武徳殿でも会いました。（世の中は狭いですね）

62期 飛田武昭

昨年は男子団体と男子個人のインターハイ出場と、堂々とした試合ぶり、すばらしいの一言です。

74期 山田恒昭

年をとるたびに忙しくなってきました。なかなか上田へ帰れませんが、剣道班OB会は帰省のチャンスを与えてくれます。

66期 清水通男

長野西高校に転動となりました。縁あって上田高校在職中に剣道班に関われたこと大変素晴らしい経験でした。

前参与 半田淳子

5月の京都大会では香川の七段の方と対戦し、メンの一本勝でした。今週後半からは国際剣道連盟理事会出席のために、わずか3日間ですがイタリアに行つてきます。

64期 宮坂昌之

謹啓、会員諸氏益々御健勝のことお喜び申し上げます。堀内先輩亡きあと、我々老後者（ロー

トル）が何時まで御付合いたせばよいものか？OB会をOBする時期はいつが適当か判断つきかねている今日頃であります。後期高齢者時（75才）位までは御付合いたいと思つてはいますが、その前に人生をOBしないよう元気で暮らしてまいりたいものと思つています。よろしく、57期 田中義司

大変御無沙汰しております。この時期はぶどうの管理作業の最も重要な時期となり、仕事が忙しく出席できません。大変残念ですが、皆様によりしくお願い致します。昨年は日本農業コンクール優秀賞をいただきました。

66期 飯塚芳幸

昨年の活躍は感激しました。これからも伸び伸びと伸びて下さい。東日本大震災ではご心配いただきましたが、無事でやっておりますので、報告いたします。ありがとうございます。

76期 土屋誠治

宮下杯第一回に参加させていただきました。小生が優勝者にカップをお渡しいたしました。兄も現在までトーナメント戦が続いていることに陰ながら喜んでおられると思います。私は二段を取得した年に終戦となり剣道は中断してしまいました。兄は38回卒で八段を受ける年に病に倒れましたが、熱心な剣道愛好者でした。当日別の会と重複し残念ですが欠席しました。

44期 宮下英世

まあ一応健康という所です。長野は私にとつて青春を過ごした忘れ得ない土地です。現在いろいろ物思いにふける事がありますが、それは長野。皆さんによりしくお伝え下さい。

44期 池田孝三

相変わらず小学生の剣道手伝わりますが、子供も指導する側も減りなかな大変です。あの時急に眼の色が変わり、一気に伸びる子供に驚かされるながらポチポチやっています。ご盛會をお祈り申し上げます。 70期 須永久

浪人生として上田予備校で日々勉強に励んでおります。上田高校から響く声を励みに精進致します。 109期 鬼久保拳伍

宮下杯優勝者の声

【男子優勝】二年百十一期 朝倉雄磨
自分が宮下杯という伝統ある優勝杯に名前を残すことができ、とてもうれしく思います。

この大会は、部内戦という形ではありませんが、大人の審判が立ち、正式なコートで試合をするだけあって、普段とはまた違った雰囲気での試合をする事ができました。そのような雰囲気の中で試合をできたこと、また、そこで勝ち上がったことは、大きな経験にな



りました。しかし、この優勝ということに決して満足することなく、来年の宮下杯も優勝するつもりで臨みたいと思えます。

この宮下杯の場で経験したことを活かして、自分達、上田高校の最大の目標であるインターハイ出場、また、インターハイの場で勝利を取めるということに向けて、これからも日々精進していきたいと思えます。

【女子優勝】二年百十一期 三井 楓

今回のOB会宮下杯は私にとつての二回目の大会になりました。百九期の先輩達が卒業されてから、四人で戦ってきた私達ですが、今年新たに二名の後輩を迎えました。五人のチームが組めることの嬉しさを噛み締めながら、また、六名という少人数だからこそ、一丸となって約一年間通ごしてきました。そんな仲間と試合をし、お互いの成長を感じると共に、自分もさらに成長しなければいけないと、気持ちが引き締まりました。

OB会ではいつも、先輩方から激励の言葉をいただきます。これから、寒く、辛い時季になりますが、夏の大会に向けて、今回の宮下杯の優勝の経験と、先輩方からの言葉を励みに稽古を積んでいきたいと思います。

現役生の声

【班長】三年百十期 石田大地

自分にとって上田高校剣道班の一員として過ごした日々は何事にも換えることが出来ない充実したものでした。

そして、それは全国の舞台を目指した本気の時間でした。

中学時代は全く考えられなかった全国大会が、上田高校に入学し、先輩方と稽古を重ね、試合をしていく中で、目標へと変わりました。そして、昨年の県大会で優勝しインターハイに出場しました。自分は試合に出ることは出来ませんでした。先輩方が試合する姿を見て、全国の舞台が現実的なものになり、全国大会に出たい、先生方連れて行きたいという思いがより強くなりました。結局その目標は達成することが出来ず、全国大会に出場出来なかったこと、先輩方との約束が果たせなかったことは今でも悔いが残っていて忘れられません。後輩達には是非男女アベックで全国大会出場を果たしてもらいたいと思えます。

先輩方の引退後は班長を務めさせて頂きました。神津先生からは、「上田高校剣道班の班長は普通の班長と違う、伝統を代々受け継いできた特別なものだ」と常に教えられました。プレッシャーも感じましたが、百十期班長を務めさせて頂けたことは自分の誇りです。

また、三月十一日に発生した東日本大震災によって多くの方々が被害を受け、今も復興に向け活動しています。その影響で選抜大会をはじめとする各種大会、錬成会が中止となりました。そのような状況の中で自分達が剣道をさせて頂けることがとても恵まれていてことだと、感謝しなければならぬことだと改めて思いました。



自分がこの剣道班で学び、成長することが出来たのは神津先生や竹内先生、OB会の先輩方、保護者やその他多くの方々の支えがあったからです。本当にありがとうございます。これからも感謝の気持ちを忘れずに一歩一歩進んでいきます。

編集後記

今年は無曾有の大災害が発生しました。まずは東日本大震災、および長野県北部地震で被災された方々にお見舞いを申し上げます。さて、今年十一月三日の第五十九回全日本剣道選手権大会は、見応えのある素晴らしい試合だった。テレビで観戦していると、自分もあのよう動けるかのような錯覚をしが、実際には無理でもあのように動きたいものだ、と思った。

（編集委員：佐藤、工藤武、神津、正村）
一月二日OB会のお知らせ日時 一月二日
● 14時半〜OB対現役生対抗試合
15時〜稽古会 上田高校第二体育館
● 17時半〜懇親会の受付
18時〜懇親会 大門町「さや」
(会費5000円)

※幹事小林真大(百六期)
090-8307-6564

OB会ホームページ <http://www.sinsyu.or.jp/~kendou/> パスワード：1111
会員制掲示板ID：ueda

**来年度のOB会は
9月23日(土)です**

● 来年度会費納入のお願い ●
会費(三千元)およびご寄付の納入は、十二月末日までお願い申し上げます。

〇住所変更の方は幹事長までご連絡下さい。
幹事長 七十二期 竹内茂直
〒389-0505東御市和2789

もしくはホームページ管理人まで E-mail
kensi-65@juniter.samnet.ne.jp

顧問	39期	萩原 秀治
会長	54期	桑沢 俊猛
副会長	61期	阿部 祐之
幹事	65期	若林 敏幸
副幹事	67期	工藤 武和
幹事	71期	柳沢 武取
副幹事	72期	竹内 茂直
幹事	75期	渡邊 隆信
副幹事	76期	佐藤 博
幹事	80期	正村 聖美
副幹事	82期	近藤 敏朗
幹事	86期	柳澤 哲
副幹事	87期	山崎 完爾
幹事	84期	坂戸 由恵
副幹事	87期	金森 健志
幹事	77期	神津 純
副幹事	77期	

(退任役員) 今までありがとうございました
76期塚田量、参与半田淳子